

ふじあざみ



田貫湖からの冬の富士（写真：吉田英雄氏、富士宮市下条）

寒風に雪煙を上げる富士山頂

シベリアからの冷たい高気圧が南下し、太平洋側に低気圧が発達する西高東低の冬の型の気圧配置になると、季節風が吹き荒れ、日本列島の太平洋側は晴天の日が続きます。この季節は空気も澄み、遠く関東平野からも雪をいただいた美しい富士山を望むことができます。

この季節の富士山は人を拒絶する厳しい状況になります。

雪と氷に閉ざされた山頂部は、1日の平均気温がマイナス15度以下、最低気温はマイナス30度以下にまで下がり、風速も平均で15m以上、最大風速は40mを超えることもあります。このため気圧の谷間や低気圧の通過にともなって降った雪は、水分を多く含まず軽いせいもあって、そのほとんどが「飛雪」となり「雪煙」となって舞い散ってしまいます。1年で気温が最も下がる1月～2月頃の厳冬期に、思ったほど富士山頂の積雪が多くないのはこのためです。

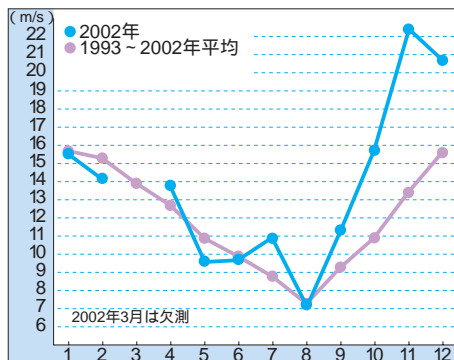
また、独立峰である富士山は森林限界付近でも年間を通して風が強く、風下方向に

だけ枝が伸びる現象が起こります。この現象によってできた樹形を「風衝樹」と呼びます。五合目付近ではカラマツの風衝樹を見かけます。カラマツはさらに過酷な条件下では、強風と雪崩などを避けるためにハイマツのように地面に沿って枝を伸ばしているものもあります。

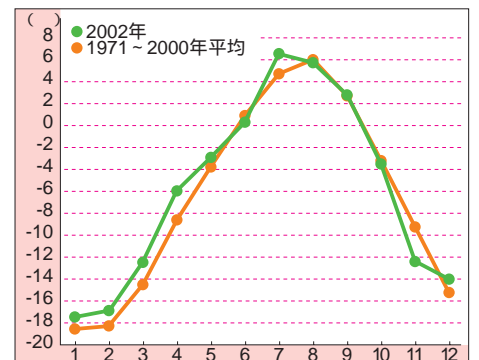


地面に沿って枝を伸ばすカラマツ

富士山頂の年間平均風速



富士山頂の年間平均気温



参考資料：富士山測候所 データより

活火山リスト 富士山はランクB 富士山の基礎知識

2003年1月、火山噴火予知連絡会が発表した新しい「活火山リスト」によると、国内の活火山は新たに22追加されて108となり、過去の火山活動度によってランク分けされています。

国内108の活火山※と3つのランク

新しい活火山リスト

火山噴火予知連絡会が2003年1月21日発表した「活火山リスト」によると、日本には108の活火山があります。活火山は時に噴火や異常現象を発生させ、大きな災害をもたらすことがあります。

これらの活火山は「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」という定義のもと、火山活動度によってA・B・Cの3つにランク分けされています。ただし、このランク分けは火山学的に評価された過去の火山活動度に基づくものであり、噴火の切迫性を分類したものではありません。

過去の火山活動に基づく活火山のランク分け

過去100年間の観測データに基づく100年活動指数、及び過去1万年間の地層に残るような規模の大きい噴火履歴に基づく1万年活動指数により、
ランクA：100年活動指数あるいは1万年活動指数が特に高い火山。

ランクB：100年活動指数あるいは1万年活動指数が高い火山。(ランクAを除く)

ランクC：いずれの活動指数とも低い火山。(ランクA・B以外の火山)の3種類にランク分けされています。

ただし、海底火山や北方領土の火山23については、データが不足していることからランク分けの対象になっていません。

ランクAには、十勝岳・樽前山・有珠山・北海道駒ヶ岳(以上北海道)、浅間山(群馬・長野)、伊豆大島・三宅島・伊豆鳥島

(以上伊豆諸島)、阿蘇山(熊本)、雲仙岳(長崎)、桜島・薩摩硫黄島・諏訪之瀬島(以上鹿児島)の13火山が、ランクBには、富士山をはじめ36火山、ランクCには36火山が分類されています。

火山情報の種類

気象庁は、火山観測などに基づき火山情報を発表します。

情報は、都道府県知事、警察、防災関係機関、報道機関、地方自治体を通して住民に知らされます。また気象庁のホームページ(<http://www.jma.go.jp/>)で見ることができます。

気象庁が発表する情報には次の4種類があります。

緊急火山情報 生命・身体にかかわる火山活動が発生した場合、

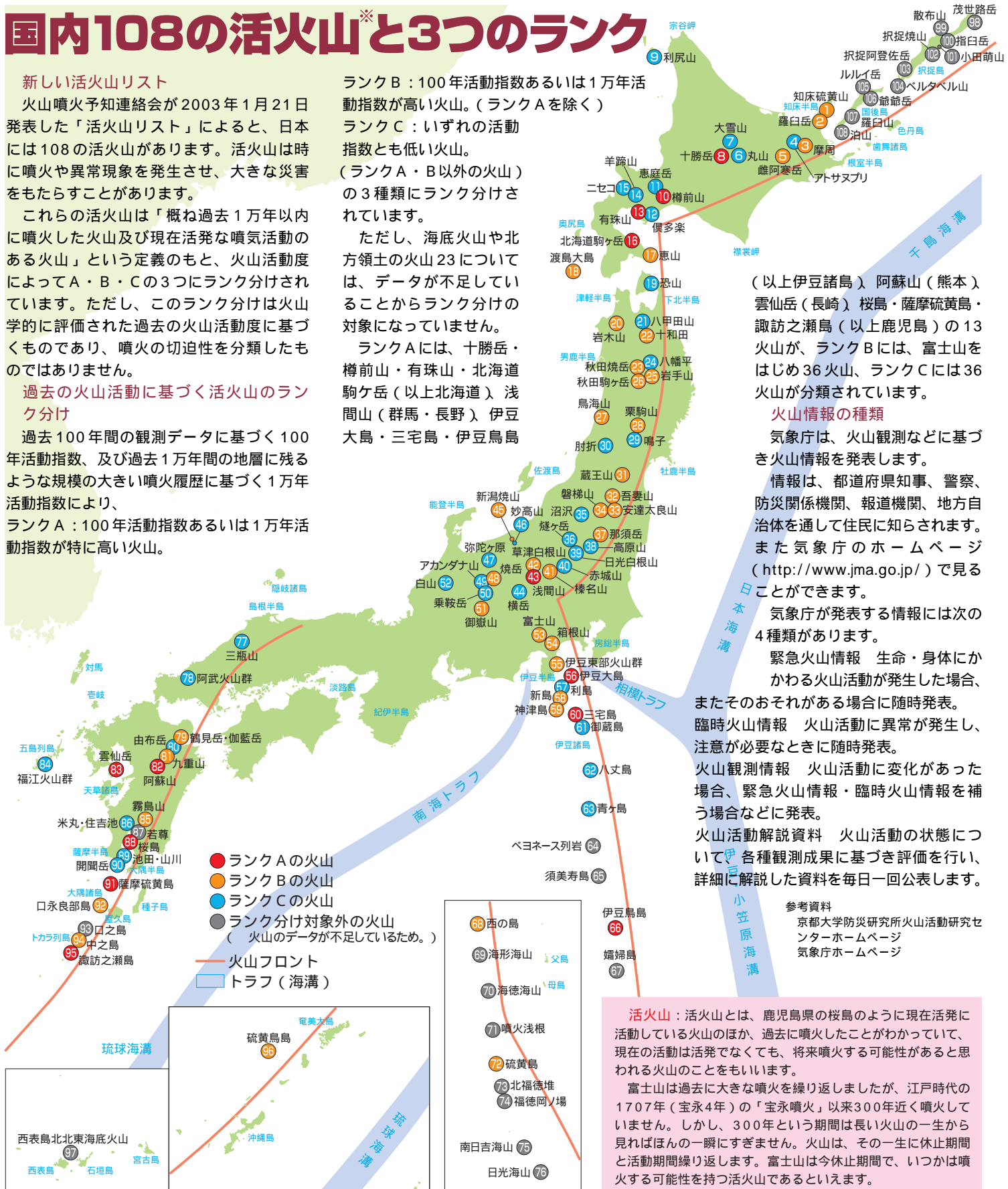
またそのおそれがある場合に随時発表。

臨時火山情報 火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表。

火山観測情報 火山活動に変化があった場合、緊急火山情報・臨時火山情報を補う場合などに発表。

火山活動解説資料 火山活動の状態について、伊豆各種観測成果に基づき評価を行い、詳細に解説した資料を毎日一回公表します。

参考資料
京都大学防災研究所火山活動研究センターホームページ
気象庁ホームページ



富士山に暮らす

安心・安全な地域づくりに資する富士山の砂防工事。工事現場に於いて発生する伐根・伐採材や、土石流によって流れてきた土砂・礫(レキ)を有効に利活用しています。

大沢扇状地ストックヤード(仮置場)の役割

ストックヤード(仮置場)の役割

ストックヤードは、土石流により大沢川遊砂地に堆積した大量の土砂を仮置きする場所で、これにより他の公共事業や民間が土砂を利用する場合の、土砂の搬出量と時期の調整ができるようになりました。

土石流となって流れてくる土砂は、粒径が数ミリから2メートル以上のものまで大きささまざまです。そのため、ふるい分けや破碎を行い、受入れ側で必要とされる大きさに調整を行っています。

現在、大沢川の土砂は海岸の養浜材や道路の盛土材など数多くの事業に活用されています。最近では、富士山こどもの国や富士宮市の県営ソフトボール場、道の駅朝霧高原等でも使われました。



ストックヤード

富士山に寄せる想い

富士ひのき・くるみの里



富士ひのき加工協同組合 理事長
佐野 三郎 氏

「しあわせ
幸福を招く富士ひのき」。
私たちは富士ひのきを、こ
う紹介します。霊峰富士の
ふところで、その恵みと愛情をいっぱい
受けて育った富士ひのきは、大切な富士山
からの贈り物です。柱の1本1本、板の1枚1枚
に富士の精がやどり、その家に住む人々の心
を豊かにし、幸福を招くと言われていま

す。私たちの組合は、育林・製材・販売・建築
の異なる業種が、伐期に達した富士ひのきを
優良な建築資材に加工し、販路を広め、その
利益を再び富士山の森に還元して富士山を守
るといふ、循環型の事業形態を目指して結成
したものです。

富士ひのきの森

現在富士ひのきの森は4万ヘクタールほど
ありますが、そのほとんどが終戦後の国土緑
化推進の波に乗って植えられたものです。表
土が薄い富士山麓の火山灰地では、根を横に
張るひのきが適しており、盛んに植えられま
した。その後、下刈り・枝打ち・間伐等の育
林期間を経て、現在、伐採と加工に最適の時
期を迎えています。

林業と木材に対する社会の変化

ところがここに、数十年前には考えられな
かった時代の変化が起こりました。

まず、安い外国産の木材におされ国産木材

の需要が激減したこと。次に、柱の美しさを見
せる日本型の家屋が減って、建築材に対する
要求が大きく変わったこと。そして、二酸化
炭素による温暖化等をはじめとする環境問
題。また、欠陥住宅の社会問題化を受け、平
成12年4月に定められた品確法(住宅品質
確保促進法)の制定などです。

木材価格の下落、さらに消費者の意識の変
化は、美しく高価な木材を作ることを常に念
頭においてきた日本の林業形態に大きな打撃
を与えました。また、多くの製材業者が環境
問題と、品確法の施行によって要求される木
材の品質管理・規格化の問題等に対処しきれ
ずに撤退を余儀なくされました。その結果、
木を伐っても採算がとれない、加工する所も
ないという事態になりました。

将来を見据えた木材加工場

こうした状況は、林業従事者
の問題だけではなく、地球環境・
自然保護の面でも大きな問題と
なりました。森林率では世界有
数の日本の森を放置し荒れるに
まかせることになります。また、
年老いた樹木は二酸化炭素を吸
収し酸素を排出する能力も衰え
ます。人工林は常に人の手を必
要とするのです。

平成11年11月に稼働を始めた
新工場「富士ひのき・くるみの
里」は、これらの問題を解決

すべく、将来を予測して設計された、最先端
をゆく工場です。

まず、工場には焼却炉がありません。原木
の皮は綿状に粉碎され(パーク)、家畜の敷
きワラ、畑の雑草よけなどに利用されていま
す。チップ・ブレナー粉・おが粉も別々に分
類されて利用されます。木材を乾燥させると
きに出る水蒸気も、水に戻して「富士ひのき
の精」として商品化しました。



左から含水率(D)、ヤング係
数値(E)、富士ひのきマーク

品確法にもい
ち早く対応し、
ヤング係数(強
度)と含有水分
を自動測定し、
木材1本1本に
記入した品確法

適合資材を生産しています。

林業と環境保全

私たちは今後も時代の要求に応え、さらに
付加価値の高い製品と環境に優しい工場を目
指します。また、森林の多様性等も考慮に入
れて植林し、自然と人間が共存できる循環型
の事業を推進して行きます。それが、結局は
地球環境の保全に結びつくと思えるからです。



霊峰富士と富士ひのきの森を背にした富士ひのき・くるみの里

地域の ニュース



10/31 富士宮市立富士宮第2中学校



11/19 神奈川県治水砂防協会

富士山土砂災害対策連絡会開催

12月9日(火) 噴火や侵食による、富士山の土砂災害について情報交換する「富士山土砂災害対策連絡会」(全国治水砂防協会主催)の初会合が、都内で開かれ、小室直義富士宮市長、鈴木尚富士宮市長ら富士山麓一都三県十三市町村の関係者が意見を交わしました。国土交通省の近藤浩一砂防部長は、関係の都県や市町村が、共通の認識を持って、広域的な防災対策を構築する必要性を訴えました。

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	参加者	参加人数	見学及び学習内容
10/21(火)	富士宮市立井の頭中学校	1名	河川についての学習
10/28(火)	千葉県技術交流会	10名	講演と扇状地見学
10/31(金)	富士宮市立富士宮第2中学校	9名	火山噴火等の学習
11/4(火)	名城大学教授	1名	扇状地見学
11/14(金)	JICA研修(ネパール)	1名	講演と扇状地見学
11/17(月)	浜松建設業協会	15名	扇状地見学
11/19(水)	神奈川県治水砂防協会	30名	扇状地見学
11/25(火)	修善寺町老人クラブ	32名	扇状地見学
11/26(水)	静岡県内商工会議所研修	26名	講演と扇状地見学

国立中央青年の家で パネル展を行いました

10月11日(土) 御殿場市の国立中央青年の家が主催する青年の家フェスティバルにおいて、砂防事業などに関するパネル展を行いました。



地震工学市民講座が 開催されました

11月21日(金) 日本地震工学会(石原研而会長)主催の第1回の「地震工学市民講座」が、富士市大淵の富士常葉大学で開催されました。当日は、行政防災担当者や市民など約200人が参加しました。この講座は、東海地震をはじめとする大地震災害への関心が高まる中、行政や市民に最新の地震対策情報を紹介し、それらを生かして災害の軽減につなげてもらうことをねらったものです。

静岡県地域防災の日

…防災訓練など(御殿場市、その他)実施…

「地震防災の日」の12月7日(日) 東海地震などに備えて、県民の防災意識を高めるための県地域防災訓練が行われました。当日は、70市町村で約59万7千人が参加して、地域防災指導員による災害図上訓練が、また、警察・消防などと協力して、倒壊家屋からの人命救助訓練などが行われました。

山梨県富士山麓市町村が協定締結

…富士砂防事務所へ要望…

山梨県富士山火山防災協議会は、12月11日(木) 富士山の火山災害などに対応する災害応援協定を締結しました。構成自治体の被災・緊急時の相互応援と防災ネットワークの強化を目的としたものです。締結に合わせて国や県に対して要望書が提出され、富士砂防事務所にも、同日要望書が提出されました。

山梨県富士山火山防災協議会開催

11月4日(火) 山梨県富士山麓10市町村で組織する富士山火山防災協議会は、富士吉田市役所において総会を開催しました。当事務所からも富田所長が出席して意見を交換しました。

富士山憲章推進会議 5周年記念フォーラム

11月19日(水) 20日(木) の2日間、富士宮市民文化会館において、富士山憲章制定5周年記念フォーラムが開催され、富士山の環境について意見を交わしました。

第8回「富士山への手紙・絵コンクール」入賞者が決まる

応募総数 6,848(手紙部門 3,548・絵部門 3,300)の中から 37名の入賞者が決まりました。おめでとうございます。各部門の最優秀賞の方を報告いたします。尚、佳作以上の作品を、平成16年1月31日から2月3日(火)まで市民文化会館小ホールに展示します。また、1月31日(土)には、富士宮市民文化会館において富士山学習発表会のなかで表彰式を行います。

富士山の絵 最優秀賞



(幼児の部) 横田さくら
愛知県美浜町立
布土保育所5歳



(小学生高学年の部)
大山桃子
富士市立天間小学校6年



(中学生の部) 滝川 卓
富士市立吉原第一中学校2年



(小学生低学年の部)
増根啓将
富士市立今泉小学校1年



(高校生・成人の部)
山本浩輔
星陵高等学校1年

富士山への手紙 最優秀賞・特別賞

(小学生低学年の部)
小川智之 東京都狛江市市立第一小学校2年
(小学生高学年の部)
稲葉夏子 富士宮市立東小学校4年
(中学生の部)
中村麻里 富士宮市立第二中学校1年
(高校生・成人の部)
後藤美幸 沼津市小磯訪
特別賞
小林智美 富士市立富士中学校2年

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防事務所

担当/建設専門官・鈴木、または調査課長・小泉まで

TEL.0544-27-5387

<お問い合わせ先>

国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査成果を基にしています。今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合も考えられます。